

2025 年 第 2 回 VLBI 懇談会役員会 議事録

作成: 2025 年 8 月 4 日(月) 佐野栄俊 (岐阜大学)

本議事録は、2025 年 8 月 4 日(月)の 2025 年第 2 回 VLBI 懇談会役員会の開催前に配布した会議資料に、議論の内容を赤字で追記し、議事録として確定したものです。

1. 本会の開催日時 2025 年 8 月 4 日(月) 09:00–10:30

2. 開催形式 Zoom によるオンライン開催

3. 参加者確認

出席: 小林, 佐野, 今井, 寺家, 青山, 関戸, 新沼, 藤澤, 石垣, 米倉, 赤堀, 三澤, 土居, 小山

欠席: 本田, 大木, 中川, 小川, 岳藤

4. 議題

[1] 今年度 VLBI 懇談会シンポジウムの準備状況（国立天文台への研究集会の応募状況も含む）

a) 世話人（敬称略）: 今井 裕 (SOC chair)、寺家 孝明、小山 翔子、中川亜紀治 (LOC chair)

b) HP 作成：以下 URL のご確認を。

<https://sites.google.com/view/v-con-simp2025/>

c) 告知している開催関連のスケジュール

2025/06/11 1st サーキュラー（期日と場所の告知）

2025/09/01 (TBD) 2nd サーキュラー（研究発表・参加、学生旅費補助の受付開始）

2025/10/03 (TBD) 研究発表、学生旅費補助の受付締め切り

2025/10/20 (TBD) 3rd サーキュラー（プログラム公開、旅費補助対象者への告知、参加者リスト公開）

2025/10/31 (TBD) 発表なし参加及び懇親会参加締め切り、参加者リスト確定

2025/11/6-7 本シンポジウム開催 学生セッション(11/8)、ngVLA ミニWorkshop (11/5) [どちらも確定済]

2025/12/19 (TBD) シンポジウム集録原稿提出期限

2026/01/30 (TBD) シンポジウム集録電子版公開、製本へ(TBD)

d) 国立天文台研究集会助成：

(ア) 申請、審査結果待ち。

(イ) サブタイトル： VLBI における新しい学際横断連携

e) 開催スペースの確保

VLBI懇談会シンポジウムを天の川銀河研究センターとの共催とさせて頂いた

f) 今後直近の予定 (9月以降に取り掛かる予定)

(ア) 2nd circular の準備

(イ) 参加登録フォームの作成

(米倉) 聞き逃したかもしれないのですが、参加費はゼロですか。

(今井) お茶代などは回収しなくてはいけない。LOC が検討中。

(米倉) 11/8(土)は国立天文台三鷹が停電の予定です。

(今井) 学生 V 懇は、学生が色々と検討している。午前中に学内で集会をやって、午後に入来に見学にいくという予定だそう。天文台の停電の影響はあまりないはず。

(寺家) 三鷹だけではなく水沢も停電します。

(今井) VERA の観測には影響しますよね。

(寺家) 影響しますね、停電対応の方が何人か来られる。入来はないはず。三鷹と水沢のみ。

(寺家) ハイブリット開催でしたっけ。

(今井) まだ検討中ですが、ハイブリットでやりたいと思っている。本セッションは影響ない。6日は午前中からやるので、前日入りを推奨。

(寺家) 鹿児島でその時期に市のイベントなどあるか。もしあればアナウンスを。

(今井) 11月 2-3 日にイベントがあるが、当日は問題なさそう。

[2] 選挙（役員選挙、シンポジウム集録可否）の準備状況

- シンポジウム集録可否について

小林会長に準備いただいた原案をもとに、事務局側でウェブの投票フォームを作成しました。ご確認のほど、よろしくお願いします。

(米倉) 名前は公表しないので、記名式と書かない方が良い。また、メールが届かない人にはどうするか。何らかの方法で意見を聴取する必要がある。その辺りはどのようにお考えか。

(小林) 前回の役員会で、コメントを書いた方は名前が公表されることにしたはず。

(米倉) その場合は、コメントは名前が公表される旨を書いた方が良い。

(小林) この場でもういちど決めてても良いと思います。

(米倉) このままの方針で良い。前書きを修正いただく。

(佐野) メール自体の不達は現時点ではない。会員のメールアドレスは把握しているはず。

(米倉) それなら良いです。

(小林) 3年以上会費を支払っていない方は、集録は送らないが、会員ではある。その中に、何名かメールアドレスが不明になっている方がいたはず。その方についてはしょうがない。

(佐野) メールの通達日、役員会日、締め切りなどはいつにするか。

(今井) 今日で承認するのであれば、今日の日付で良いのでは。締め切りは V 懇シンポジウムまで（遅くとも 9月末まで）。

(赤堀) これまでの議論の経緯について、議事録の経緯を記載することになっていますが、読みにくいのでは。文章になっている方が、会員の方の判断を助けるのではないか。事務局の負担になるかもですが、どうでしょうか。

(小林) 私の方で経緯のドラフトを書いたのですが、その議論の細かな経緯を書くと主観が入ってしまうので、客観的な事実として議事録の内容を採用した。確かにわかりづらいが、この問題を全く知らない人も少ないと私は思いますので、どうでしょうか。

(赤堀) ほかに意見がないようであれば、これで良いと思います。

(米倉) 役員会の議事録が、いつどこのものか、ということが入っていると良いと思います。

(佐野) 場所・日付を追加します。

- 役員選挙について

(小林) 岡田さんと木村さんが用意されたシステムがあります。無記名で投票できるシステムがある。

(佐野) わかりました、佐野の方で問い合わせます。

(小林) 選挙の前までには、機関代表者を決めるようにお願いします。また、次期の事務局についても決めなくてはいけません。過去の経緯を見ると、次は山口大学か東北大学ですね。

(藤沢) 東北大は宇電懇の事務局も担当されておりお忙しいと思いますので、順番ということであれば山口大学で引き受けます。

(小林) 事務局長を藤沢さん、新沼さんにするかは相談してください。

(米倉) 新たに機関代表を出すかという件について、先日、福井工業大の宮本さんと話をしました。その場では即答はいただけず。メリットとデメリットを教えていただいたうえで判断されたいとのことでした。小林会長から直接勧誘をしていただけるといいかと思います。

(藤沢) V懇の活動に対しての意見を言えるのはメリットですね。

(今井) 福井工大の中では、村田さんと中城さんもおられますよね。宮本さんとコンタクトはあるのでしょうか（コンタクトがあれば、V懇の内容を知っているはず）。

(米倉) 宮本さんにお会いした時は、まだそういうこと（V懇への加入）を考えておらず、村田さんに伺ってなかつたのでは。ちなみに宮本さんは、研究室は完全に独立で運営されているそうです。

(小林) それでは一回、宮本さんと話をしておきます。強制されてやるものではないので。

(佐野) 例年いつぐらいに実施されているのでしょうか。

(小林) 10月くらいに例年選挙をしている。

(佐野) わかりました。そうすると9月末までを締め切りとして、いちど役員会で話した方が良いですね。では9月末を締め切りとして、機関代表の変更の有無や、新機関の参入、さらには事務局長について、各機関で決めていただき、役員会を経て、選挙に臨みます。

[3] 将来計画WGへの検討依頼の検討

(小林) VLBI懇談会の将来計画WGについて。いまは新沼さんが座長で活動をしていただいている。将来計画の答申を3年前に出してもらって、現在は活動を休止中。国立天文台や日本天文学会でも、これから将来計画が非常に活発に検討されているので、再度、VLBI懇談会でも将来計画を検討してはどうか。ゼロから作るのは大変なので、これまでのものについて、達成状況などを確認し、改訂していただく形にしたい。

(今井) タイムランはどんな感じになりますか。

(小林) 今年のV懇シンポまでは難しいので、来年のV懇シンポでまとまったものを議論できればと思っています。

(今井) 世話人は継続ですか。

(小林) 見直さなくてはいけない面もあると思う。新沼さんもいまだいぶ忙しいみたいで、他の人に代わってもらえないか、という話もあります。

(新沼) 各ワーキンググループに進捗を確認することが必要。前回各サブグループをリードした人たちの中でも入れ替わりが多いので、メンバーシップは全体で議論する必要がある。参考までに前回ワーキンググループのメンバーを決めるときは推薦で決めました。

(赤堀) この数年間で予算人員が厳しい現状で、ロードマップという時間的な部分まで踏み込んで将来を議論し始めている。V懇も将来計画の方も非常に素晴らしい。ビジョン・将来性が見えているが、周りから聞こえてくる声としては「やっぱりVLBIのコミュニティの人はあれもしたいこれもしたいと言っていて、全部できるんですか」という声もある。コミュニティとしてのキャパがあるので、何をどういう順番でやるのかなどが、コミュニティが考えるということがトレンドになりつつある。良いビジョンがあるので、コミュニティとしてこういうようにすれば良い、ということを示せれば良い。マイナーアップデートにはなら

ない。完璧なプランにならずとも、コミュニティとの対話を実施し、なんとなくこうなるといういうものは示せるのでは。

(新沼) 赤堀さんのコメントに賛成。一方で、観測所の存在は大きい。コミュニティが決めても、観測所ができるかはわからない（リソース不足）。観測所の方にもコミュニティの一員として入ってもらい、フラットにサイエンスの議論をしてくださっていました。今度はそうではなく、観測所の立場で意見を言っていただくのも大事なのかなと、前回の活動をやった経験から感じました。

(小林) 将来計画を具体的な計画として議論すると、望遠鏡やリソース、ソフトウェアにいくらかかって、その予算をどういうふうに調達するのか、という議論。それにどのくらいの研究者が関わり、どのくらいのプロダクトがボリュームとしてあるかに踏み込まざるを得ない。それができるか。それぞれが計画を出し合って、それぞれお金と人と計画を出し合って進めていくというやり方もある。

(赤堀) 程度の問題でもある。あまり細かくいくのは難しい。V懇のコミュニティは、V懇のコミュニティが知っている。他のコミュニティには見えていないので、そこを可視化するだけでも意義がある。例えばV懇は150人いて、50人ごとに3つグループで考える。何人若手がいて、どういうチームなのか、外部に見える化する。

(佐野) V懇以外のコミュニティに向けて見せるということか。

(赤堀) 将来計画を作るって言った時に、誰に向けて作るのが結構重要なポイント。だから、やっぱり対外的に見せるという意味では今言った。我々はこのくらいの規模感でこういうふうに考えているっていうところを見せた方が良いかと。将来計画の書類はオープンになっていると思いますので、誰でもアクセスできます。将来がどうなっていくか、若手のキャリアパス・研究支援がクリアに書けると、これから世代がVLBIコミュニティに参加するうえでの魅力発信になるのでは。

(佐野) 方向性として、将来計画委員会を再起動して更新していくことについてマイナスの意見を持つ方は居られないというところで良いと思います。その場合、例えばどういうふうに進めていくかとかは、どうしましょうかね。

(小林) 私の方でチャージ（議論の検討依頼）を書いてみますので、役員会で議論していたければ。あとは人選ですが、どのような推薦でしたか。

(新沼) 私の方で周りの方の声を伺い、枠組みを作りました。その後 V懇に、それぞれのチームに適任の方を推薦くださいと連絡して、

(小林) 役員会としてはリーダーを決めて、あとはその方に任せたということですね。

(新沼) そうですね。リーダーを決める時は、V懇シンポの時に流れで決まった記憶がある。前回関わらせていただきましたので、方針を決めるというところについては、私も積極的に検討していく。一方でメンバーは大きく変わっているので、サポートというか、一緒に議論してくださる方は検討の必要。もちろん中身の検討にもかかわるつもりです。アクティブな若い方々が入ってきてていますので、その方々の意見も組み込んでいくことが、V懇にとって

良いのではないか。

(小林) 次回 V懇でどう具体化するか議論で良いですね。次回の役員会は9月ごろに招集。

(佐野) それでは9月に役員会を招集します。その時に機関代表の件なども議論したい。

[4] 各ワーキンググループの活動状況の報告

(藤沢) VLBI の教科書作成の WG。活動は止まっていましたが、実現のため引き続き進めしていく。再開しますので、よろしくお願ひします。

(小林) 歴史 WG は、担当者の方を決めて連絡していますが、なかなか集まっていない。できたものから HP を作って順次掲載している。V懇 HP からもリンクあり。

(小林) あとは将来計画の WG なので、現時点で3つ。

[5] その他

特になし

5. 報告事項

特になし

以上